

9 アルマの重ね葺き工法

9-6 下葺材の施工

重ね葺き仕様（既存屋根が石綿を含まない場合）

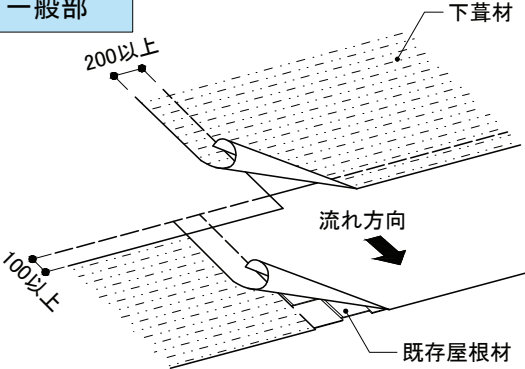
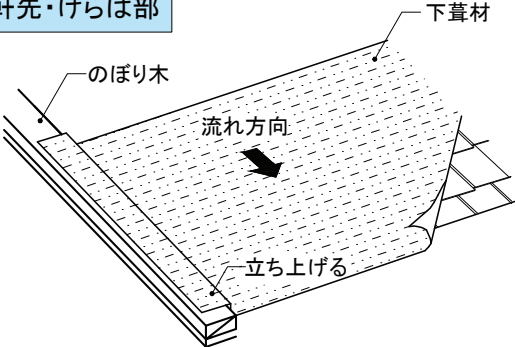
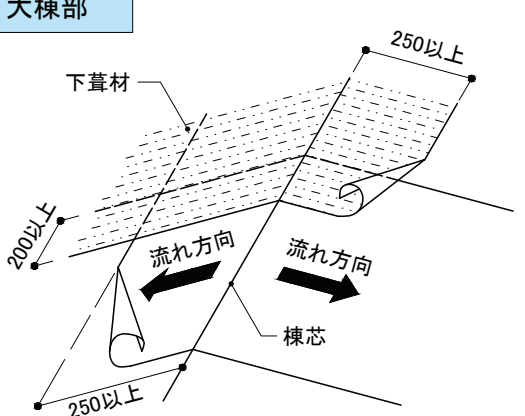
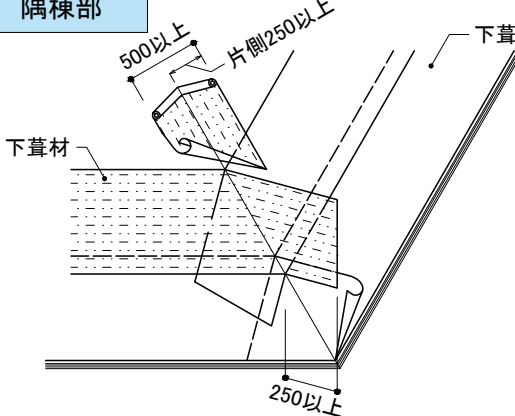
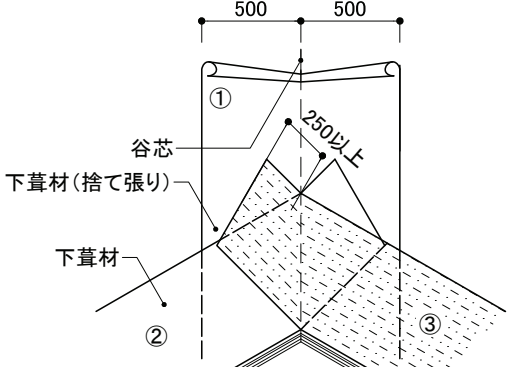
1) 重ね葺き仕様：既存屋根が石綿を含まない場合

本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿を含まないセメント系新生瓦、アスファルトシングルの際に適用されます。

【使用する下葺材】

片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング：厚1.0mm以上

※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

<p>一般部</p>  <p>●重ねしろは、上下100mm以上、左右200mm以上とします。</p>	<p>軒先・けらば部</p>  <p>●既存けらば水切の上にのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。</p>
<p>大棟部</p>  <p>●大棟部は、片側250mm以上（両側二重で500mm以上）重ねます。</p>	<p>隅棟部</p>  <p>●隅棟部は、屋根面より250mm以上延長して下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上のシートを隅棟芯に沿って施工します。</p>
<p>谷部</p> <p>●谷部は、 ①谷芯を中心に下葺材を捨て張りし、 ②、③その後、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばして施工します。 （図中の○数字は、施工の順番を表しています。）</p> 	

※既存屋根材がアスファルトシングルの場合、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めします。